

## 月次祭 宣教局長挨拶

月次祭、おめでとうございます。

本日も、全国からお越しくくださった皆様と共に、月次祭を迎えさせていただきました。

私たちは、今、明主様が教主様を通してご教導くださっています「全く新しい信仰」を賜っています。そのお赦しとみ恵みに対しまして、感謝申し上げます、皆様と共にご参拝をさせていただきました。ありがとうございます。

さて、本日より、教主様は、韓国本部30周年記念信徒大会にご臨席のため韓国にご巡教になります。成井理事長は、ご巡教に随行させていただくため、本日の祭典にお出でになることができません。したがって、本日は、理事長に代わりまして、私が月次祭のご挨拶を申し上げる次第となりました。よろしくお願い致します。

皆様にはすでにお知らせしたことでありますが、東方之光・MOAと小林執行部によって構成される、自称・世界救世教責任役員会は、平成30年6月26日、東方之光の関連団体である一般財団法人MOA健康科学センターの理事であり、東海大学名誉教授でインド哲学研究者である「渡瀬信之」氏わたせのぶゆき（77歳）を、全会一致の賛成のもと「五代教主」として、推戴しました。

そして渡瀬信之氏は、世界救世教・教規第5条第3項に基づき、教主として、「岡田信之」と名乗ることになった、とのこと。なんという行為でしょうか。

渡瀬氏は当然のことながら、明主様、また歴代の教主様とは一切血のつながりがなく、岡田宗家の親戚ですらありません。そのような方を五代教主として擁立するということは、とんでもない愚かしい行為であります。

彼らは、いつまでこのようなことを続けていくのでしょうか。私どもは、いつか、彼ら自身が、いかに彼らが明主様のみ教えとはかけ離れた姿になってしまっているかに気づき、悔い改めることを願うとともに、教主様がご教導くださっていますように、彼らのこのような姿も、私どもの赦されなければならなかった姿として、主神に委ねさせていただきたく存じます。

一方、教主様はこのたび韓国にご巡教になりますが、このたびのご巡教も、「メシアの御名」にあって明主様がお働きになる救いが、真に全世界において成就されている御業であると、受け止めさせていただいております。

成井理事長は、来月のみ祭りにおいて、このたびのご巡教における、韓国

の信徒を代表とする世界の信徒の喜びと感動を、私たちに直接お伝えくださいます。〃明主様の真実、の信仰を、全世界の人々と共にお受けさせていただきたいと存じます。

本日は、〇〇布教所の〇〇〇〇さんから「感謝奉告」をいただきました。

〇〇さんは、「大光明」ご奉斎をお迎えする営みの中で〇〇さんへの浄霊を赦され、そして何よりも教主様のご教導の中で、ご自分の信仰が転換されたことをお話してくださいました。

〇〇さんは、教主様のお言葉を、「真剣にお受けしないと失礼にあたると思わせていただきました」とおっしゃっています。このことは、私自身が思わせていただくべきことであります。

①之光教団におきましては、明主様のみ教えの神髄をお伝えくださっている教主様のご教導は、唯一絶対無二の拠り所と、申し上げてきました。しかし、私自身においては、残念ながらそのような確信的な思いに至っておりませんでした。誠に申し訳ないことであります。

私の現実、教主様のご教導を離れて、明主様が与えてくださっている「全く新しい信仰」をさせていただくことはできません。明主様と教主様は、別別ではありません。教主様がおられて、今、私は明主様のお導きを賜っています。それが、私の現実であり、私の立場であります。

私は、私の中心に、教主様のご教導をしっかりと受けたいと思っております。

明主様が真実の救いとしてみ教えくださった「メシアの御名」を、教主様のご教導を通して自分の中心に受けさせていただく――「教主様中心」の姿勢を、しっかりと持たせていただきたい。そのことを決めさせていただきたいと思わせていただきました。

〇〇さんの感謝奉告は、私の現実と立場を、私に確認させてくださいました。ありがとうございます。

さて、先月は、大阪において「秋季大祭」が、①之光教団といづのめ教区の力強い連携・協働のもとに、また、東方之光教区の信徒も参集を許され、盛大に斎行されました。

教主様は、「メシア」と「メシアの御名」について、そして、明主様が「世界救世(メシヤ)教」を創立されたことについて、お言葉をくださいました。その中で、天国を建設することについて、次のようにご教導くださいました。

天国を「人間の力で建設する」という意味は、私どもを天国に迎え入れようと臨んできておられる主神のみ心にお応えし、私どもが自ら進んで天国に立ち返ることを意思表示すること、そして、私どもの自我意識が元々天国で持たされていた意識と一つになって、主神の子たるメシアとして新しく生まれ、主神と共に天国に住まわせていただくこと、すなわち、“自らの意識の中心に地上天国を建設する、ということであると思います。

だからこそ、明主様は、「地上天国を造ることによって、キリストの予言はここに的中する」とお説きになったのではないのでしょうか。

また、教主様は、「建設者は本教である」とみ教えにあります。その「本教」は「信徒一人ひとり、すなわち、自分自身である」と仰せです。建設者は“自分、であることをお伝えくださっています。

そして、教主様は、イエス・キリストと明主様について、次のようにお述べになっています。

そして、イエスの時代から約二千年を経た今、明主様は、「新しく生まれる」こととともに、「メシヤが生まれた」ことをご発表になり、「メシヤ降誕仮祝典」を挙行されました。

このことは、主神が明主様を通して私どもに対し、全人類は等しく、主神の赦しをお受けし、主神の子たるメシアとして新しく生まれることが定められていることをお示しくくださった、と私は受けとめております。

主神は、イエスを地上にお遣わしになった目的を真に達成させるために、明主様をお遣わしくくださった、とどうしても私は思わざるを得ないのであります。

最後に教主様は、「世界救世(メシヤ)教」が創立されたことについて、お言葉くださり、

明主様がお示しくくださった全く新しい救いは、何よりもまず、私ども自身の救いであります。

それは同時に、全人類とその父母先祖を始めとする過去のすべての歩みに対する救いであり、また、未来に向けての救いであります。

その救いの源は、主神とメシアの御名であります。

とご教導くださいました。そして、

明主様と共におられる主神は、「世界救世(メシヤ)教」を私どもの中で誕生させてくださっていたのです。

今、それを認めさせていただく時です。

とお示しく下さいました。

私は、ぜひ認めさせていただきたいと思います。認めさせていただくことが、「自らの意識の中心に地上天国を建設する、ことに通じていくのだと存じます。

秋季大祭では、教主補佐・岡田真明様のドイツご出向のことも、参拝した私ども一人ひとりに大きな感動をいただきましたが、教主補佐はドイツで、このようにお話しになっています。

教主様がこの十数年間私たちにお教えくださったことも、一つの結論に行きつきます。それは、明主様に倣い、あなた方も神様の子どもであるメシヤとして新しく生まれたいですか？ということです。

私は、神様が、まさに今、この質問を私たちに聞いてきておられる、と思えてなりません。

あなた方は私の子どもになりたいですか？なりたくないですか？と。

そして、次のようにも確認してくださっています。

今までの私たちは、どの明主様に従うのかを取捨選択してきたと思います。しかしながら明主様は、私たちに対して、「もし私に従いたいのであれば、100パーセント従いなさい、と仰っていると思います。

恐れ多いことではありますが、明主様は、私たちをご自身の核心に至らせようとして、私たちに迫ってきてくださっているように思えてなりません。私は、素直に「従います」「お受けします」と申し上げる者にならせていただきたいと存じます。

最後に教主補佐は、「V a m o s ! (みんなでやりましょう)」と呼びかけてくださいました。

この呼びかけに、共にお応えしてまいりましょう。ご一緒に力強く進んでまいりましょう。

ありがとうございました。